援農

北海道

自動車用部品メーカーが地域農業へ貢献。コロナ禍のピンチをチャンスに！異業種交流で思わぬ「副産物」も！

株式会社デンソー北海道（千歳市）

デンソー北海道本社

【会社の概要】

- 社長 ：根橋　聖治
- 所在地 ：北海道千歳市泉沢1007番地195（千歳臨空工業団地内）
- 従業員数 ： 1065名（2019年4月）
- 連絡先TEL ： 0123－47－8800
- デンソー北海道は、車載用半導体センサの生産拠点として、2009年4月に北海道千歳市で操業を開始
- URL：：http://www.denso-hokkaido.co.jp/index.html

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 札幌近郊のJAでは以前から農家の慢性的な労働力不足に悩まされており、アルバイトの募集や、マッチングサイトにも登録。
- ◆ 特に本年は、新型コロナウイルスの影響により、学生アルバイトが大幅に減少した地域もあった。
- ◆ 一方、デンソー北海道では、新型コロナウイルスの影響により受注が一時減少し、工場の稼働率が低下。
- ◆ この機に社として力を入れている「農業」を学び地域に貢献することを目的に、従業員による援農を企画。
- ◆ 北海道庁が開設したマッチングサイト「北海道短期おしごと情報サイト」で、JAの求人を確認・相談。
- ◆ 20～40代を中心に9名の社員が援農を希望し、3～5名のチームで農家に入り、田植え・野菜の定植・除草・収穫などを行った。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 当初はデンソー北海道製の圧力センサを提供している北米農業向けスマート潅水システムなどの活用を想定したが、北海道では雨水のみで十分でありスマート潅水は必要ないことがわかり、他のセンシング技術での貢献を探る必要がある。
- 農作業未経験者の従業員がチームを編成し、交代で作業にあたることから、作業を分かりやすく正確に引き継ぐ必要があった。

⇒部品製造会社である特色を活かして、詳細な「作業要領書（マニュアル）」を作成し、確実に作業が引き継がれる体制を構築した。

【取組の成果】

- 作業引継書として作成した「作業要領書（マニュアル）」は、農作業の手順が写真やイラストで「見える化」されており、JAからは今後アルバイトや農福連携などで作業指導にも応用できると期待が寄せられ、今回の取組の思わぬ「副産物」となった。
- 今回の援農を通じ、機材等を作る側・使う側、双方の立場を経験する機会となった。

【今後の展望】

- 人の経験や勘に頼ることが多い農（作）業を、誰もが効率的・確実に行うことができるような「マニュアル作り」や「作業改善」の協力・提案。
- 自動車分野で培ったデンソーの技術力の農業分野への応用。
- 援農を通して農業への理解を一層深め、労働力不足などの課題解決に貢献。

屋外の作業は気持ちが良いと話すチームのメンバー

ばれいしょの収穫作業（恵庭市）